

## 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2470301017		
法人名	鈴鹿インター株式会社		
事業所名	さつきの里 グループホーム		
所在地	三重県鈴鹿市伊船町字上の割2020-3		
自己評価作成日	平成28年9月22日	評価結果市町提出日	平成28年11月3日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaisokensaku.jp/24/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kihon=true&amp;JigvoNoCd=2470301017-00&amp;PrefCd=24&amp;VersionCd=022">http://www.kaisokensaku.jp/24/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kihon=true&amp;JigvoNoCd=2470301017-00&amp;PrefCd=24&amp;VersionCd=022</a>
----------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 28 年 10 月 6 日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様お一人おひとりの生活を大切にすべく、個別ケアを日々心がけ、残存機能を活用していただいています。観察・気づき・工夫により、利用者様にそっと寄り添い、思いやりの心を大切にしています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

鈴鹿インター近く、通所介護、居宅事業所と同じ敷地内に併設された2ユニットのグループホームである。2階建ての建物で、内部は広くゆったりとしている。窓から外を見ると鈴鹿の山々が見渡せ、スーパーや工場、畑などが広がり、産業道路が近くに四方に走っており、利用者は車が走っているのを見るのも楽しみのひとつになっている。敷地内には日本庭園があり、東屋に散歩に出かけるのも利用者の楽しみである。重度化してきている利用者もあり、家族や本人が最期までここで過ごしたいという思いを受け止め、口から食べる支援を職員のきめ細かい配慮や努力で実行している。ベテラン職員を中心にチームワークもよく、利用者との関わりも個別ケアを重点的に実施している。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設創設からの理念ではあるが、適切ではない言葉があるので、職員間で話し合い本社に検討していただくよう働きかけている	開設以来の理念の見直しを検討しているが、キャリアを重ねた職員を中心に、利用者に対しての尊厳を失わず個別ケアを大切にしている介護は、理念に通じており実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の小学校・中学校の運動会・文化祭に参加している。また、中学校の職場体験授業も受け入れている。介護専門学生の実習も受け入れしている	事業所は2つの自治会にまたがっており、自治会に加入し、市の広報紙が配布されてくる。地元の祭りの案内ももらっている。近くの小学校、中学校の運動会に参加し、玉入れをして楽しんだ。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	推進会議に参加していただいている地域の皆様に認知症の様々な症状や看取りについてのお話をさせていただき色々な意見交換をさせていただいている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設の近況報告・施設食事試食・出展作品見学などをしていただき、ご意見、ご指導いただきサービス向上に活かしている	会議では現況報告をするとともに、地域代表の参加者から地域の情報を得る機会でもあり、会議は熱心に話し合う場になっている。年間6回の開催を目指しているが本年度は5回の開催になっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	広域・包括センター・相談員の方々に意見交換・情報交換していただき協力関係を築くように取り組んでいる	加算など制度上の申請書類の書き方を施設長が市へ出向き、助言指導を得ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内から広くゆつくりとした芝生の日本庭園に自由に入出入りができる。安全の為、駐車場に続く門扉は施錠している。身体拘束の意味をすべての職員が理解した上で拘束しない支援に取り組んでいる	拘束の弊害については、研修で学んでいる。帰宅願望で外に出たい利用者には止めないで、後ろからついて気の済むように本人本位の介護が実践されている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設全体・職員、しっかり虐待防止についてしっかり努めている。管理者は現場に入り日頃の利用者様・職員の事をしっかり把握している。職員・管理者間の報告もしやすいよう努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ご本人・家族様からの要望があれば必要性を話し合い、活用できるよう対応しています		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約は施設長・管理者が立合い、十分な説明をして、不安や疑問にしっかり対応させていただいている。解約の際の相談もしっかり対応させていただいています		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族様面会の際には利用者様の生活の様子等を報告させていただく中で家族様の要望等を聞かせていただけるよう努めている。要望があればすぐ対応出来るよう努めている	要望を聞くよう玄関に意見箱が置いてある。家族の面会時には様子を報告し、要望や意見を聞いている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の会議は日頃の職員の意見・疑問・改善案等を書き出した物を議案にして会議を行う。管理者は職員とのコミュニケーションも大切に心がけ、職員の意見を聞き出しやすい環境作りに努めている	職員会議は月に1回、ユニット毎に開催している。会議には施設長はじめ本部から社員の出席もある。開所して10年以上経ち、白物家電など故障も出てきており、職員から修繕や購入の要望があり、即解決出来るように努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務表は職員の希望の休日を取り入れながら作成している。また、月1回会議を通じスタッフ間の意思疎通を図るようにしている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	必要な研修に参加してもらっており、月1回会議で勉強する機会を設けている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	小・中学校の運動会参加・応援に他の施設と一緒にいる機会がある。おたっしや広場作品展示会運営会議・各種研修参加している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前のご本人面談で思いを伺い、しっかり受け止め現状・背景を理解し信頼関係を築けるよう努め安心を確保できるよう努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前は必ずご家族様の要望をお聞きしている。ご本人が安心して生活出来るサービスを提供しながら、信頼関係を築く努力をしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所初期には利用者様の生活の様子観察を徹底し、利用者様の日々の変化に対応し家族様にも報告し要望等をお聞きしている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様一人ひとりの事をよく知る事に努め、日々の生活の中で深く関わり共に支え合い感謝の気持ちを大切に信頼関係を築き、共に生活するつながりを大切にしている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様面会時の際、職員・家族様の会話を大切に、面会しやすい環境作りを心がけ近況報告していく中で家族様と共に考えご本人を支援している		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族以外の面会者も歓迎している。電話も出来る支援していて、携帯電話を持ってみえる利用者様もいる	親戚や友達が訪ねてくれる。一般新聞を個人的に購読している利用者もある。鈴鹿市内の小規模事業所が年に1回、福祉作品展を開催しているが、本年は会場が変わって「鈴鹿ハンター」になり、利用者には馴染みの場所で大変喜んだ。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士のコミュニケーションは困難な事が多くなってきているのが現状ではあるが、席等を考え工夫し、職員が仲を取り持ち、良い関係を築けるよう支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後は疎遠になる事が多いが、退所ご毎月家族様がお花を施設に届けに来て下さっています		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の望まれる過ごし方を尊重し安全の保たれる範囲で希望に添える様努めている	日々接する中で、顔色や表情で思いを汲み取ることができる。入浴時など職員と1対1になった時にも思いが聞け、知り得たことは申し送り時やノートで職員間で共有して、本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人・ご家族様とのコミュニケーションを大切に考え、積極的にお話を伺うよう努め細かく把握する努力をしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々、様子観察の大切さを職員が把握し、表情・食事・排泄の状態の把握に努め、日中・夜勤の申し送りで現状把握をしっかり努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人の状態、ご家族様との会話の中の思いを反映し毎月のカンファレンス・サービス担当者会議でより良いサービスを提供できるよう努めている	毎月カンファレンスを行っている。計画書は3か月ごとに担当者会議を開いて検討し、家族の要望はあらかじめ介護支援専門員が確認している。計画書と同時にそれぞれに「24時間介護スケジュール」を作成して、時系列に一日の流れを示して、支援にあたっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護日誌の記入・申し送り・申し送りノート・会議記録等で情報を共有し、計画の見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別ケアを重視し、既存のサービスに捉われない事なく食事・入浴など個別に工夫し個々に合ったサービスを提供している。ご本人・ご家族の意向に沿って看取りも行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地元産の食材・お店を利用させていただき安心・安全な食事提供させていただいている。また、地元のボランティアの方々の手品・踊り等、大型ショッピングセンター、外食も楽しんでいただいている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設連携医の同意はしていただき、ご家族差様の希望される病院には受診していただいている。受診後の治療方針等も家族様の希望にそっている	全員が協力医療クリニックの医師が主治医となっており、協力医の定期的な往診がある。他の医療機関への受診は家族が行っている。歯科についても協力提携の歯科医師が往診してくれる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設連携医の24時間対応・月2回の往診がある。連携医には気づきや状態をしっかり伝え相談し適切な指示をいただき支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	緊急の際、スタッフ全員スムーズに救急隊員に伝えられるよう既往歴・保険書等はまとめてあり、薬ノートもすぐ提供できるようにまとめてある。救急の際にはスタッフが1人は同行している		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所契約時に「重度化した場合の方針」について説明、理解していただいている。ご本人・ご家族様の意向に沿い主治医と連携をとり、スタッフ間で情報・状態を共有し、終末期を支援している	利用開始時、重度化した場合の方針に基づいて説明し、さらにその状態になった時、主治医・家族・職員が話し合い、方針を決めている。家族からは最期までホームで看取ってほしいという希望も多く、思いに沿った介護を実践し、すでに何名かの看取りをホームで行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防学校の1日研修はスタッフは必ず参加し、応急処置の訓練はうけている。事故・応急処置を実践で行ったスタッフによって様々な場面での指導をうけている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災訓練年2回・防災訓練年1回している。夜勤想定訓練もしている。日中は近くの親会社に応援を依頼できる体制がある。災害時には近隣施設の協力も書面で交わしている	火災を想定した訓練、地震を想定した訓練を年3回実施している。2階からの避難に外階段の滑り台を使った訓練を過去に行っている。外倉庫に、非常用の備蓄品の保管もしている。	最近、想定外の自然災害が日本列島のいたるところで発生している。施設長(防火管理者)のもと、危機意識をもってさらに訓練の積み重ねを期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	全てに同じ表現・対応ではなく症状の違い・性別・性格の違いを踏まえたうえで、声の大きさ・話し方会話の内容を考えた対応心がけ、尊重する気持ちを考え対応している	利用者その人をわかることが一番大事と考えている。コミュニケーションをよくとって、その人柄・性格を知り、そのうえで、尊厳を損なわない対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定できる方に関しては、支援している。会話の難しい利用者様には普段から様子観察をしっかり行い表情・手振り等でいつもの違いに気づき思いがわかるよう努力している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事・入浴にかかる時間・お昼寝・就寝時間も個々に違い、それぞれのペースに合わせている。体調・気持ちの変化を汲み取りその日その時に合わせて支援できるよう心がけている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髭剃り・ブラッシング等は支援している。外出の際はいつもよりおしゃれな洋服を着て出かけられるよう支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	刻み・トロミの加減・味付け等の工夫している。食べ物好き嫌い・食事制限のある方の工夫、外食・握り寿司・うなぎの出前などでおいしい食事を楽しんでもらっている。もやしの根切り、食器・お盆拭きをしていただいている	朝食、夕食はホームで作っている。昼食は、併設のデイサービスの厨房で業者が作り、出来上がったものを刻みやとろみ食にして提供している。下ごしらえや後片付けなどそれぞれに応じて利用者の出番もある。寿司やうなぎなどの出前も楽しみである。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	主食・副食のバランス、食べ易いように工夫したり嫌いな食べ物は食材を変更し提供している。1日の水分量は個々に量・回数・時間を管理し、食事・おやつ以外の時間でも提供している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	義歯は毎日消毒洗浄させていただいている。歯磨きもさせていただいている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、個々のトイレ誘導したり、行動から察してトイレ誘導をし排泄が自立している方の現状維持に努めている	できるだけトイレで排泄する支援をしている。時間を見計り誘導し、見守り介助している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日誌・バイタル表で管理し、運動も毎日行っているが、運動・飲食の工夫では困難な方が多いため主治医指示の元、服薬にて排便コントロールしている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	午前中が入浴時間となっているが、利用者様の希望・体調等を大切に、決められた時間外でも個々のペースでゆっくり入浴していただけるよう努めている	午前、午後と時間を決めてしまわないで、利用者本位での入浴支援をしている。一日3人が入浴し、週に2回が回数である。入浴剤も使っている。足にむくみのある時は、マッサージを施しながら、足湯を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々に入眠される時間はことなる為、いつも快適に休んでいただくよう、夕刻に居室温度を快適に設定し、シーツ等も清潔に整え、安心して休んでいただくようにしている。昼寝の際はフローアで休まれる方がいるため、スタッフも静かに休憩するよう心がけている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員当番制で毎日薬準備をしており、用法・用量は理解に努めている。症状の変化に応じて主治医との連携に努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	裁縫・その他、個々の力に合った家事などが習慣づいている。その時の表情は生き生きしてみえ、張り合いになっている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとり希望に沿う事は難しい事もあるが、施設園庭であれば希望に添えるよう努めている。現在の利用者様の身体的状況で家族の協力を得ての外出は困難である	利用者の重度化がすすみ、全員での外出は年々難しくなっている。施設内に手入れされた日本庭園、東屋があり、そこへの散歩は日常的に行っている。外出も個別支援になっている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金管理困難の利用者が多く、施設管理です。いつでもお金が使えるようには支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂の椅子は個々に合わせた椅子になっていません。壁面には月行事の思い出の写真・利用者様作品が飾られている。窓から見える山の景色からも季節を感じさせ光の調節も出来て心地よく過ごしていただけるよう工夫している	広いリビングはゆったり感じられ、陽光もブラインドでうまく調整している。壁には写真や利用者の作品が飾られている。気になる臭いはしないし、清掃も行き届いている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	いくつかのソファ、外景色のみえる場所には椅子があり、日向ぼっこをしたりゆったりと景色を眺める空間がある		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時なるべく馴染みの物・家具等の持ち込みをお願いはしている。写真や思い思いの物で個々のその方らしい居室になっている	衣類を入れる衣装箱、机と椅子などそれぞれ思い思いの物が各居室にあり、写真なども飾られてその人らしい居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室内ポータブルトイレの位置など安全かつ自立できるよう工夫している。転倒防止と自立を妨げない工夫として、シルバーカーに鈴をつけて対応している方もいる		